

令和6年度 2年次生 学びのプラン

教科名	国語	単位数 (コマ数)	1単位 (2コマ)	履修年次	2年次
科目名	古典教養	履修	選択	開講	通年
教科書		副教材	新演習 古典アチーブ2 三訂新版(桐原書店) 体系古典文法・古典単語330		

1	学習の目標
「言語文化」で学んだ古典の基礎を発展させ、読解に必要な知識の深化を図り古典の読解力を一層高めるとともに、作品に親しむ態度や豊かな情操を養う。	

2	学習の方法
① 授業について 週2コマ。講義形式・ペアワーク・グループワーク等、適宜実施する。 ② クラスについて 選択者で実施。特別教室を使用することもある。(事前に指示する。) ③ ノートについて 各自用意すること。板書・メモを各自で記録・整理すること。 配布されたプリント類を保管しておくためのファイル等を用意しておくこと。 ④ 小テストについて 「知識・技能」の定着を確認するため、適宜実施する。 ⑥ 授業の際に必要な物 教科書・ノート・ファイルを毎時間用意する。 PC・タブレット等を授業時に使用する。	

3	評価について
①評価の観点	
知識・技能	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるとともに、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品や文章について内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	進んで古典に用いられている語句について学びを深め、語感を磨き語彙を豊かにしようとするとともに、学習の見通しをもって古典を解釈し、自らの考えを広げたり深めたりしようとしている。

②評価の方法						
観点 \ 材料	定期 考査	単元 テスト	振り返 りシート	ワーク シート	グループ ワーク	評価方法
知識・技能	○	○				単元ごとに身に付ける知識や技能を考査等によって評価する。
思考・判断・表現	○	○				作品や単元ごとに、学習を通して得た知見を生かし、自らの考えを広げたり深めたりする状況について、ワークシートやグループワーク、レポート課題等で評価する。
主体的に学習に取り組む態度			○	○	○	進んで古典への学びを深め、見通しをもって自らの学びを広げたり深めたりしようとしている状況について、ワークシートやグループワーク、レポート課題等で評価する。

4	その他
○ 評価の詳細については、都度ルーブリック等を提示し、目標と評価基準を明示します。 ○ 主体的に学習に向かう姿勢を求めます。「教えられる」ではなく、「学ぶ」よう努めてください。 ○ 「知識」を「活用」して「考える」学習をしてください。	

5 単元の目標・評価										
科目名	古典教養		オリエンテーション							
単元の目標	「古典教養」を学ぶ上での注意点や、1年間の見通しを確認し、学習に向かう姿勢や評価方法などを理解し、主体的に学ぶ姿勢をもつことができる。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準								「古典教養」の学習について概要を理解し、主体的に学習に向かおうとしている。		

科目名	古典教養		単元名	古文における文法事項と本文の読解のポイントをおさえる						
単元の目標	既習の助動詞・敬語等について確認・和歌の修辞法と文学史知識の学習する。(『平家物語』)(『枕草子』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	古文を正確に読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古文特有の表現などについて理解することができる。			文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。			進んでこれまでの学習を振り返り、活用して文章を読解し、考えを深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	漢文における句法と読解スキルを向上させる							
単元の目標	漢文訓読に必要な既習事項の確認、文法知識をもとに展開を把握する。(『韓非子』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	既習の句形を確認し、口語訳、白文における返り点の配置を正確にできるようにする。				作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。			漢文訓読きまりについて学習をすすめるとともに、主張について考えを深めようとしている。		

科目名	古典教養	単元名	登場人物の把握を中心に読解を深める							
単元の目標	古文を読むために助動詞、敬語等の文法事項を完成させ、様々な文章の読解につなげる。 （『今鏡』）（『平家物語』）									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	既習の助動詞を確認し、確実な習得につなげる。 敬語表現について習得する。			省略部分を補って、内容の解釈を深めることができる。			作品の背景や、作者の心情について考えを深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	逸話から登場人物の行動や心理を読み解く。							
単元の目標	漢文訓読に必要な既習事項の確認、文法知識をもとに展開を把握し、正確な読解につなげる。 (『十八史略』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	既習の句形を確認し、口語訳、白文における返り点の配置を正確にできるようにする。			指示語の内容を正しく読み取り、作品における主張を理解することができる。			漢文訓読きまりについて学習をすすめるとともに、主張について考えを深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	古文における比喩表現と会話文から物語の展開を読み解く							
単元の目標	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について学び、読解につなげることができる。 (『増鏡』)(『古今著聞集』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	単純な助動詞の理解ではなく、文脈判断における助動詞の意味理解につなげる。			比喩表現や会話文の把握から、本文における人物の心情や関係性と読解することができる。			文章の構成や、登場人物の心情を進んで読解し、作品の面白さについて読みを深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	漢文における指示語や対比を読み取り主張の展開をつかむ							
単元の目標	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 (『世説新語』)(『韓非子』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	抑揚形や二重否定などを習得し、読み間違いがないよう正確な本文読解につなげる。			知識・技能を使い、主語と例示の関係や、比喩表現などの正確な読み取りができる。			文章の記述からの的確な読解をすすめるとともに、積極的に作品の描かれた時代背景を考察し、作品の読解を深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	心内語からと本文の展開を読み解く							
単元の目標	背景知識をもって古文作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考察を深めることができる。(『栄華物語』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	心内語に使われる助詞を学習し、習得する。 終助詞について習得する。			内容を理解するとともに、テーマの構成や当時における人物の描かれ方を理解できる。			文章の記述からの確な読解をすすめるとともに、進んで背景についての考察を深めようとしている。			

科目名	古典教養	単元名	思想史における背景知識をもとに主張を読み解く							
単元の目標	背景知識をもとに書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について読解することができる。(『宋文鑑』)									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	中国における思想の種類とその特徴について理解を深めることができる。			知識技能をもとに、本文における作者の主張を読み取ることができる。			様々な思想の特徴を味わうとともに、文章からの的確な読解をしようとしている。			

6		年間計画				
学期	月	単元		項目	予定時数	考查
前期	4	単元名	教材			前期中間考查
		オリエンテーション		「古典教養」の授業の進め方、学習の仕方について確認し、学習の見通しを持つ。	1	
	5	古文における文法事項と本文の読解のポイントをおさえる	○(『平家物語』)巻九「知章最期」 ・登場人物の整理	・品詞分解をし、的確に口語訳・内容理解をすることができる。 ・既習の助動詞・敬語等についての確認をする。	10	
			○(『枕草子』)六段 ・心理・心情の把握	・和歌について、文学史的に理解する。 ・和歌の修辞技法などの文法的事項について理解する。		
	6	漢文における句法と読解スキルを向上させる	○(『韓非子』) ・会話文の把握 ・受身形・使役形の復習 ・疑問形・詠嘆形	・漢文訓読の基礎を確認し、読解をする。 ・既習の句形を確認する。 ・会話文に注意して本文を読解する ・法家思想に触れ、統治における思想背景を理解する。	5	前期期末考查
	7	登場人物の把握を中心に読解を深める	○(『今鏡』)巻六 ・助動詞の確認 ・省略を補って読解する	・作品の描かれた背景について理解する。 ・作品の登場人物の関係や、それぞれの心情について理解する。	10	
	8		○(『平家物語』)巻十	・敬語表現を習得する。		
	9	逸話から登場人物の行動や心理を読み解く。	○(『十八史略』) ・指示語の把握 ・疑問形・反語形	・指示語の内容を正しく読み取る ・反語の句形について、疑問形との関連づけて習得する。	7	後期中間考查
後期	10	古文における比喩表現と会話文から物語の展開を読み解く	○(『増鏡』) ・比喩の理解 ・助動詞の確認 ○(『古今著聞集』) ・会話の把握 ・文脈判断による助動詞の意味理解	・本文を文章に即して正確に現代語訳する。 ・比喩表現について理解する。 ・登場人物の関係性や、登場人物の心情を考える。	12	
	11					
	12	漢文における指示語や対比を読み取り主張の展開をつかむ	○(『世説新語』) ・漢文における比喩の把握 ・抑揚形 ・主語と例示の把握 ○(『韓非子』) ・対比 ・二重否定	・例示と主張内容を正確に理解する。 ・抑揚形について習得する。 ・対比されているものを読み取り、主張をつかむ ・二重否定形について習得する。	12	後期期末考查
	1					
	2	心内語からと本文の展開を読み解く	○(『栄花物語』) ・心内語につく助詞を理解する ・終助詞について習得する	・内容を理解するとともに、テーマ構成や当時における人物評価の観点について理解を深める。	7	
3	思想史における背景知識をもとに主張を読み解く	○(『宋文鑑』) ・諸子百家について学習する ・比較形	・漢文学における背景知識を習得する ・比較形について習得する	6		